

“情報とは何か？”

土木工学科 宮野一彦

情報として漠然と使われている概念は、新聞・ラジオ・書籍雑誌・電話・テレビなどのメディアを通じて送受されるデータであります。ある特定の立場における価値観というフィルターを通して、これに高度の加工を施すとき、価値のある情報が出来てきます。それが精神的な文化、文明として受け入れられるものとなります。しかし創造の世界に情報処理の概念を持ち込むことはまだ行なわれておりませんので話を身近なレベルにかぎって見ましょう。今日情報量が飛躍的に増大しつつあることは昭和35年から43年迄に、例えば書籍の売上げ部数が年間1億5,000万部から4億1,000万部へと2.8倍となり、郵便物が年間68億通から100億通になり、通常郵便物1人当たりが年間73通から101通に、通信回数が164回から231回にも増加したということからも知ることが出来ますが、われわれの身边にあっても専門雑誌数や文献数の増大を感じられます。このような情報量の増大に対処しようとする際、まったく無関心あるいは故意に情報量の増大を無視することは恐らく世間の進歩より取り残されることになるでしょう。そこで膨大なデータの中より、

真にわれわれの必要とする情報をいかに要領よく効果的に抽出し、加工し、蓄積するかが問題となって来ます。情報量が爆発的に増大し、またその処理の方法が進歩していくということは、とりもなおさずそのような状態はコンピュータが作り出し、コンピュータによって担われるのです。例えば国鉄のみどりの窓口、郵便物の郵便番号による処理、電気・ガス等の請求書などすでにコンピュータを利用した情報処理の例は身边にいくらでも見られます。

さて土木の場合の情報処理はどうでしょうか。海岸波浪の波高周期情報が刻々と集計されても直ちにそれに対処する必要はなく、交通量情報によって道路の線形を即時変更することもありません。土木の場合は工事の計画、構造物の設計、開発システム、環境システムの設計及び構造物の維持管理にかかるものがあります。それでオンライン・リアルタイムということはそれほど要求度は多くありません。しかし膨大なデータの中から必要とする情報を抽出し、加工し蓄積することはオンライン的ではありませんが必要となっております。具体的な問題を列挙すればよいのですが紙数の都合上省略します。

友と語る —文学のひろば—

その3

西牧君の
『人形の家』について

2 C 小柳 なおみ

ビブリア第3号の(文学のひろば)で、西牧君が『人形の家』について次のような問題を提起された。

すなわち、家庭を捨てたノラの行動の是非について「人間として生きるということと、母親として生きるということとは、次元を別にして考えるべきであろうか」と疑問を投げかけたが、西牧君は暗にノラの行為については批判的な態度をみせていた。

この問題について、私なりの考えを披露してみたい
と思ってベンをとった。

私はこの物語で扱われている「真実の愛」というものに目を向けた。この物語を読んだ人はきっとノラの夫メルヘルが、ノラに対し「真実の愛」を与えるなかつたと考えるだろう。そしてノラが一番求めていたものは「真実の愛」だったのだと言うにちがいない。

しかし、この世に「眞の愛とはこういうものだ」と定義づけられる人がいるだろうか。自分の愛に疑問を持つ人は少なくない。人は「自分の愛は眞実なのか」と思い悩むだろう。だが、「眞実の愛」を決定できる人は存在しないにちがいない。

それならば、ノラは単なる偶像を追いかけていたのだろうか。空虚な妄想に惑わされて、すべてを捨てたのだろうか。

ノラは、夫を、そして子どもを捨てるという時に、苦悩というものを知らなかった。彼女の心の中にあつた何物かが、大きな壁にぶつかった時、爆発した。そして彼女は初めて、人間である自分に気付いたのだ。

人が行動を起こす時、そのすべては愛と良心とによって止められ、すべての人は愛と良心の前にひざまづき、苦しみ、悩み、行動するか、否かを決定するものだと信じる。

ノラは、愛がなかったが故に、この苦悩を知らずにすんだのだと思う。メルヘルは、彼女への愛と称するものを、利己主義の武器につかっている。ノラを押さえてまでも、自分のために彼女をつかんでおこうとしている。愛を盾にし、自分の利己主義を貫ぬこうとしている。たとえメルヘルの愛が眞実のものであったとしても、この時点において、彼の愛は眞実ではなくっていると思う。尊敬も信頼もそして愛も失われた結婚生活を、どうしてノラが続けなければならないのだろうか。彼女が飛び出していくのは当然ではないか。

彼女が一人の母親であったことが、とがめられるべきことなのだろうか。私は彼女の母としての愛を信じたい。ともすると、子ども達を第二の人形っ子にしそうな彼女は、まちがった母としての愛を、たち切ったのだ。感情のない、感情を認められることのない人形にすることを、彼女の愛は許さなかったのだ。

私は、彼女の行動は、人間として生きることと、母として生きることの両方を満たすものであったと思う。そして、彼女の行動に、心から賛同の手を差し延べたい。

彼女は脱出した。自分の勇気と力で。だが、彼女の未来はどうなのだろう。一人苦難に満ちた道を勇しく歩くだろうか。それとも、眞実の愛（彼女の求めていいる愛）を与えてくれる人とめぐり会い、幸せな日々を送るだろうか。私は、彼女を信じたい。彼女だったら、人間である彼女だったら、きっと自分の勇気と力で、幸せを見つけだすだろうと。

『獵人日記』 —ツルゲーネフ—

3 M 大沼 武

『獵人日記』におけるすぐれた自然描写と、その歴史的役割については、かねてから、しばしば耳にしていた。すなわち、広大な自然の中に、農奴制のもとで、みじめに生きるロシア帝政期の農民の姿が誠実に描かれている、ということである。

確かに、作者の冷静な観察眼には、感きわまるものがあった。「マリーナの泉」、「領地管理人」、に代表される、あまりにもあわれな農奴たちの姿は、今でも目の奥に焼きついて離れない。それらの淡々とした記述には、正直のところ、いろいろさせられたが、それだけに印象が激化したことは否めないのである。

ところが悲しいかな！一級品ともいいくべき、ツルゲーネフの自然描写ではあったが、とうとう最後まで、なじむことができなかつた。思えば無理からぬことである。こんなちっぽけな島国に住む私に、どうしてロシアの、あのケタ違いのスケールをもつ大自然が理解できよう。「みわたすかぎりの麦畑……」を、無理に想像しようとしても必ずや、ぱってりとした山々が空想を無慈悲にさえぎってしまうことだろう。

さて、この25編から成る傑作は、實にさまざま「人間」を私に紹介してくれた。飢えに苦しむひじい人間、裕福だが孤独な人間、恋に疲れ果てた人間……、こうした種々な境遇におかれた人間がさらに、傲慢・内気・高潔・勇敢……など、誰もが避け得ない「人間性」を、まったく偶然的にしよいこみ、實に多彩な人間模様を描き出したのである。いったい、これらのうちの誰が幸福で誰が不幸だったのか？そして、誰が正当で誰が不当だったのだろうか？作者に彼ら一人一人を引き合わせて貰つた。その折々に、ヒックリと観察したものだが、まずおよそ疑問は晴れずじまいであつた。「生きたご遺体」の中で、若くして見るにたえない病身と、死ぬまで続く病床生活を強いられたルケリヤ（しかも彼女はあんなにも明郎で美しい少女だった）は言った。誰が他人の心の中にはいれますかしら？お信じになれないでしょうが、私はほんとにつらくなんかないんですよ。私は幸福なのです。……と。彼女のこの言葉は、私にとって今だに謎である。

ところで、作中の「わたし」とは、いったいどんな男だろう？と思いたち、すぐさまつきとめにかかったが、彼は持ち前の慎重な描写をもって、容易に腹を割ってはくれなかつた。時折、美しい自然を前に恍惚として、わずかに調子がうわづるくらいのものである。結局のところ、彼の性格なるものはほとんど得られな

かった。ただその当時、彼が地主で、年齢も30歳前後ということはたやすく推測できた。さて彼が地主であるからには、当然農奴を所有し、またそれらに対しても（ある程度の）迫害も禁じ得なかつたことだろう。にもかかわらず、彼の手記全体には農奴制に対するヒューマニスティックな反発すら感じ取れる。この矛盾—地主という実際的な立場と、道徳的、人間的な立場との板ばさみになり、彼はひどく悩んだのであろう。そしてこの苦悩が、彼に農奴制下の人々のありのままを、誠実にスケッチするよう促したのかもしれない。作品を読み進めるながら—甚だ無責任ではあるが—私なりに農奴たちに同情したり、農奴制を呪いもした。そしてはからずも自分が今の世に生まれ落ちたことを、この上もない幸福と感ずるのである。

樋口一葉作 『にごりえ』を読んで

3 C 梅津千恵子

とても複雑な気持ちで読んだ。お力の行為、心情、言葉全てが私には驚きだった。

明治時代の汚れた銘酒屋に展開される男女関係を背景に、自らを傷つけて生きなければならなかつたお力に、私も女性本能のような悲しさと哀れみを感じた。貧しく生れた故に純粋な人生觀を押さえつけ、裏に潜む社会にはいって行った一女性、お力にとって“生きる”とは、どんな意味を持っていたのだろうか。

結城との対話の中で、お力は胸にくすぶついていた自己批判、自己嫌悪を押さえきれなくなつたに違いない。穢れた生活に身を投じ、自分を忘れようと強いていたことの寂寥から一人悩む姿は、どん底に生きる人間としての自覚の悲しさに溢れている。子供の頃の苦労、祖父、父の悲しい人生、それら全てがお力をやりきれなく寂しくしたのだろう。「私が考えたところでどうにもならない。こんなに苦しむのはよそう。苦しんだところでどうにもならない。私は人並ではないのだから人並の事を考えて苦労する事が間違っているのだ」、そう決めつけ低俗界の人間に自分をおくことで解決しようとした彼女。しかし、彼女自身その無理を知ってしまっている。だから悩んだ末に、自分を嘲らなければ

ば生きてゆけない今の人生に涙を流したのである。“人並”でないお力は、“人並”を切望していた。“人並”に母になりたい欲望も強かった。お力にとって“生きる”ということは、“人並”に暮らしたい願望だったのではないだろうか。しかし、彼女が“人並”になるには現実はあまりにも冷酷だったのだろう。

短く果てたお力に、私は不思議な驚きの目を向けることで精一杯だった。

哀れなお力の陰に、私の心をひいたもう一人の女性がいる。源七の妻お初。彼女は、お力に心寄せる夫がものようになることを願い、黙々と生活していく。彼女には子供があった。私が、このお初に何か心安らぐものを感じたのは、彼女の夫に対する態度が私の理想と重複しているせいだろうか。しかし彼女も又、子供のために、“生きる”。ために自分を犠牲にしてしまったのだ。その意味で、私は俗に言われる昔の日本の女の生き方らしきものをこのお初に見い出さずにはいられなかった。お力から見れば“人並”であったお初も、悲劇の主人公に漏れることは出来なかつたのである。

女が“生きる”。ということは何なのだろうか。現実の社会に自己を見失うことなく“生きる”。ということは—。お力やお初の時代に“人並”に生きることは、どんな意味を持っていたのだろうか。

私の彼女達に対する哀れみは、私も又女として彼女達と同じ生き方の可能性を持つことの反抗であり、悲しさは、私自身の女であることの悲しみであるような気がする。

一葉がこの著に何を託そうとしたのか私にはわからない。しかし、当時の冷酷無残な社会状勢と、その中で生きることを強いられた女の悲しさだったような氣もするのである。一葉という女性の社会に対する訴えだったのではないだろうか。

一葉自身25歳の若さで生涯を終え、一作品『にごりえ』を残していった今、明治という時代の流れと社会状勢に隠された女の感情、社会への訴えが、昭和のこの近代化された時代に生きる私にどれだけ理解し得るか不安が残る。私が感じたのは、“女”としての事だけだったのかもしれない。が、『にごりえ』を読んだことで今まで感じたことのなかつた“女”について考えさせられたのだとしたら、それだけで充分意味があったと思うのである。

新着図書目録

図書館にのみ所在する図書を分類別
受入順に記載

総 記

朝日新聞縮刷版	47-3	朝日新聞社	大日本百科事典(ジャボニカ)21	小学館
同	47-4	同	世界美術名宝事典	
同	47-5	同	時事百科(ジャボニカ)	同
同	47-6	同	大日本百科事典編	
同	47-7	同	出版ニュース社	
同	47-8	同	出版年鑑 1972	出版ニュース社
			日本の名著	
			4. 選信	中央公論社
大日本百科事典(ジャボニカ)19		小学館		
索引小百科				

18 富永伸基・石田裕基	同	H・カメン	間垣正雄	イスラエル宗教文化史	同
24 平田萬蔵	同	寛容思想の系譜	平凡社	上山春平	
48 吉野作造	同	相良亨 武士道	培養房	日本の思想	サイマル出版会
世界の名著		秋田乾 読書の思想	同	久保幸男	
8 アリストテレス	同	松本信庄	日本神話の研究	平凡社	日本の宗教・過去と現在
28 モンテスキュー	同	野間宏 欽興抄	筑摩書房	野田文夫	同
武林無想庵	武林無想庵著者日記	貞志正造(訳)	アカルトとその時代	筑摩書房	
三好修 新聞亡國論	自由社	神道集	フロイト	フロイト著作集第1~5巻	人文書院
現代のエスプリ		水野弘元	春秋社	松本三介	
佐藤幸治		仏教の基礎知識		現代日本思想大系	
死との対話	毛文堂	中村雄二郎	東京大学出版会	I 近代思想の萌芽	筑摩書房
松波信三郎		バスクルとその時代		家永三郎	
人間論外	同	桑原武夫		同 2 横沢詮吉	同
井浦真長		ルソー研究 第二版	岩波書店	同 3 民主主義	同
天皇制	同	同 ルソー論叢	同	吉本隆明	
同 日本思想の構造	同	同 フランス百科全書の研究	同	同 4 ナショナリズム	同
大原健三郎		G・マルテン		龜井勝一郎	
ノイローゼ	同	カント	同	現代日本思想大系	
長谷川泉		K・レーヴィット		5 内村鑑三	同
三島由起夫	同	ニーチェの哲学	同	武田清子	
鈴木武俊		岩崎武雄	東京大学出版会	同 6 キリスト教	同
親と子	同	弁証法		吉田久一	
土居健郎		山崎正一		同 7 仏教	同
精神分析	至文堂	カントの哲学	同	増谷文雄	
佐藤幸治		夏目涉 日本人の倫理思想	東京出版	同 8 鈴木大拙	同
愛国心	同	増谷文雄		竹内好 同 9 アジア主義	同
祖父江孝男		欽興抄	筑摩書房	同 10 権力の思想	同
日本人	同	同 日蓮	同	長幸男 同 11 実業の思想	同
<hr/>					
哲 学					
<hr/>					
近代日本思想史講座		水野洋徳子(訳)		鶴見俊輔	
1 歴史的裏觀	筑摩書房	正法藏草履記	同	同 12 ジャーナリズムの思想	同
3 発想の諸様式	同	E・ベルトラム		中村光夫	
4 知識人の生成と役割	同	ニーチェ上下	同	同 13 文学の思想	同
5 指導者と大衆	同	特部真長		矢内原伊作	
6 自我と環境	同	武士道	角川書店	現代日本思想大系	
7 近代化と伝統	同	金谷治 孟子	岩波書店	14芸術の思想	同
8 世界のなかの日本	同	島田虔次		大河内一男	
四辺元 田辺元全集第1~5巻	同	朱子学と陽明学	同	現代日本思想大系	
シェティルナー		上田正昭		15 社会主義	同
唯一者とその所有上下	現代思潮社	日本神話	同	松田道雄	
カシバネツラ		村上重良		同 16 アナーキズム	筑摩書房
太陽の絃・詩篇	同	国家神道	同	小田切秀雄	
ブルーノ		茅野良男		現代日本思想大系	
無限・宇宙と諸世界について	同	実存主義入門	講談社	17ヒューマニズム	同
シェストフ		三木清 バスカルにおける人間の研究	岩波書店	多田道太郎	
悲劇の哲学	同	E・カッシャーラー		現代日本思想大系	
ドルバック		人間	同	18 自由主義	同
キリスト教暴論	同	S・K・ランガー		大内兵衛	
ルソー ルソー・ジャン=ジャックを數く上下	現代思潮社	シンボルの哲学	内田義彦	19 河上肇	同
ヴィルテール		齊藤正二		同 20 マルキシズム I	同
寛容論	同	「やまとだましい」の文化史	講談社	同 同 21 同 II	同
伊島勝彦		今道友信		西谷啓治	
デカルトの人間像	勁草書房	愛について	同	同 22 西田幾多郎	同
多尾敏佳		山田豊林		辻村公一	
仏教学辞典	法藏館	禪とキリスト教	潮文社	同 23 辻元	同
ゴットフリード・マルテン		山田無文		下村寅太郎	
プラトン	理恵社	禪と念佛	同	現代日本思想大系	
ジョンロック		哲学を学ぶ人のために	世界思想社	24 哲学思想	同
寛容についての書簡	朝日出版社	前田謙郎		井上楚 同 25 科学の思想 I	同
		新約聖書概説	岩波書店	上山春平	
				同 26 同 II	同

桑原武夫	同	高坂好	同	ジョン・W・ドレイバー
同 27歴史の思想	同	佐伯有清	同	宗教と科学の闘争史
吉木順三	同	所功	同	社会思想社
同 28和辻哲郎	同	片桐一男	同	A・オール他
益田博実	同	大林日出雄	同	ブルーバックス ブランクtonの世界
同 29柳田国男	同	同 159 柳木本幸吉	同	講談社
同 同 30民俗の思想	同	内田守	同	W・W・ソーカー
廣川文三	同	城福尚	同	ブルーバックス 代数の再発見 I・II
同 31超國家主義	同	三吉明	同	講談社
久野収 同 33三木清	同	鈴木映一	同	イアソ・ソーントン
日高六郎	同	同	同	ブルーバックス ダーウィンの島 同
同 34近代主義	同	宮沢賢治全集 I-12	筑摩書房	ファン・ヒール
林健太郎	同	草野心平	同	ブルーバックス 光とは何か 同
同 35新保守主義	同	富沢賢治全集 別巻	筑摩書房	都筑洋司
高橋義孝 ユング著作集	日本教文社	魔女上下	現代思潮社	ブルーバックス 新・パズル物理入門
1人間のタイプ	同	山鹿誠次	古今書院	講談社
同 2現代人のたましい	同	都市調査法	同	B・コモナー
江野寺次郎	同	林健太郎	同	ブルーバックス なにかが環境の危機を招いたか
3こころの構造	同	歴史と体験	文芸春秋	都筑洋市郎
浜川洋枝	同	日本庶民生活辞典 第18・20巻	三一書房	問題解法 代数学辞典上第二版 聖文社
4人間心理と宗教	同	太田亮 姓氏家系大辞典 第1~3巻	角川書店	豪弘 精神医学の思想 筑摩総合大学 筑摩書房
西丸四方	同	県別シリーズ 7 福島県	同	井口洋夫 化学入門 筑摩総合大学 同
5人間心理と教育	同	観光と旅 地図資料事典	人文社	高木純一 システム科学 同 同
プラトン全集V	全国書房	岩波講座	同	化石の研究法 共立出版会
日本基督教100年会	同	日本歴史23・別巻2	岩波書店	電気学会通信教育会
キリスト教大事典	教文館	同	同	情報処理のための数学 電気学会
神道辞典	培養店	同	同	大村平 情報のはなし 日科技連出版会

歴 史

多賀宗隼	人物叢書126 実業	吉川弘文館	六法全書 昭和47年版	有斐閣
伊狩章	同 127 柳亭煙草	同	柳田国男集 第2~31巻	筑摩書房
平野義太郎	同 128 大井喜太郎	同	同 同 別巻1~5	同
柳田泉	同 129 福地桜痴	同	朝日新聞社	赤坂隆 數値計算 コロナ社
安田元久	同 130 渡邉家	同	日本と中国 I・中国は大きい	小野博宣 コンピュータ国学 同
今井源衛	同 131 美式部	同	同 同 5 壬辰の変革	黒田康之介 微分学の演習 企北出版
杉本尚雄	同 132 荘地氏三代	同	同 同 6 科学と労働を結ぶ	平野幸太郎 微分学の演習 同
渡辺保	同 133 渡邉經	同	同 同 教育改革	高野一夫 微分方程式の演習 同
帆足 国南次	同 134 帆足万里	同	同 同 7 周延なき軍隊	安達忠次 三角法、フーリエ解析の演習 同
高橋昌郎	同 135 中村敏宇	同	船戸弘 コミュニケーション 筑摩総合大学	渡部重勝 解析幾何学の演習 企北出版
岩沢恵彦	同 136 前田利家	同	竹内方郎	リースマン ベクトル解析学の演習 同
太田善廣	同 137 塩保己	同	現代革命の思想6	小高司郎 画法幾何学の演習 同
川端太平	同 138 松平春蔵	同	高度資本主義国の革命	村勢一郎 代数学の演習 同
田口正治	同 139 三浦梅園	同	シャルル・フーリエ	野中敏雄 確率・統計の演習 同
森龍	同 140 小堀遠州	同	四邊形の理論上下	橋村信雄 幾何論の演習 同
圭室鴻成	同 141 横井小彌	同	リースマン	正田桂次郎 數学ライブラリーI 多元数論入門 同
吉田武三	同 142 松浦武四郎	同	孤独な群衆	梶原博二 同 2 漢字開票数論 同
山本四郎	同 143 小石元俊	同	ルース・ベキディクス	矢野健太郎 同 4 接続の幾何学 同
久保田正文	同 144 正岡子規	同	菊池松陰	牧野都治 5 OR入門 同
笠井清	同 145 南方熊楠	同	自然法	小野寺力男 同 6 グラフ理論の基礎 森北出版
安藤更生	同 146 霊真	同	吉田松陰全集 第4・7巻	同
三吉明	同 147 有馬四郎助	同	大和書房	同
川口久雄	同 148 大江匡房	同	同	同
長江正一	同 149 三好長慶	同	同	同
船沢舟	同 150 渡辺光	同	同	同
小長久子	同 151 鹤巣大郎	同	同	同
横山昭男	同 152 上杉景山	同	同	同
岸俊男	同 153 鹿児中英昌	同	同	同
北島正元	同 154 水野忠邦	同	同	同

自然 科 学

鍋島一郎	同	7動的計画法	同	田中俊一 薬学領域の発酵化学 安谷鶴弘	南山堂	構造物基礎の失敗例	鹿島研究所出版会
矢野健太郎		微分方程式	表葉房	現代生物学入門	みすず書房	土木学会誌編集委員会	
		同 大学演習 微分方程式	同	森田淳一		土木技術者のための法律講座1971-9	土木学会
三村延雄	同	微分積分学	同	教養生物学 新版	表葉房	編集委員会	
船木七緒				石田与老		人間工学ハンドブック 増補第2版	
		詳解 微分積分演習 I・II	共立出版	生物の実験法	同	金原出版	
同 同	同	微分方程式演習	同	印東弘文		新土木設計データブック上巻	北山出版
古屋茂	同	微分方程式入門	サイエンス社	概説 生物学	建帛社	D・F・パークヒル	コンピュータ・ユティリティ 竹内書店
柴田稔	同	微積分学演習	学術図書出版社	精説 現代生物学	横書店	大村平 システムのはなし	日科技連出版社
安達忠次				大田達男		若山芳三郎	
		ベクトルとテンソル演習	培風館	微生物学実験書 改稿版	広川書店	入門アナログ計算機	啓学出版
押田勇雄				湯浅町 生物学実験 道具と薬品	北隆館	黒川一夫	
		新物理学シリーズI 物理学の構成	同	矢野佐 原色植物検索図鑑	同	アナログ・ハイブリッド計算機 オーム社	
平川浩正	同	2 電磁気学	同	同 原色樹木検索図鑑	同	上條史彦	オペレーティング・システム入門
戸田盛和	同	3 振動論	同	奥山春季			日本生産性本部
山内恭彦	同	4 量子力学	同			R·Bellman	シミュレーションのABC
庄重暉	同	5 物理学史 I	同				日本放送出版協会
同	同	6 同 II	同	計算機のためのグラフとアルゴリズム	共立出版	小林孝夫	電子ディスプレイのABC
金森順次郎	同	7 磁性	同			牛沢孝道	プログラミング技法集
阿部龍藏	同	8 電気伝導	同	宇野利雄		新田謙治郎	竹内書店
中嶋貞雄	同	9 伝伝導入門	同	計算機のための数値計算	朝倉書店	タイムシェアリングシステム	同
高橋和夫	同	10 電子・原子・分子の研究	培風館	赤坂裕 数値計算	コロナ社	岸田孝一	
				中村明子		高澤コンピュータプログラミング	
物理学史研究刊行会						野中利 原子核 実験物理学講座27	同
		物理学古典論文叢書				山口昌哉	1 プログラミング序説 日本生産性本部
		同 1 射線と量子	東海大学出版会				2 プログラムフローチャート 同
		同 2 光量子論	同			島口第一	
		同 3 前期量子論	同			JIS-FORTRAN 入門上下	
		同 4 相対論	同			浦明二 Fortran 入門	東京大学出版会
		同 5 気体分子運動論	同			西村惣彦	培風館
		同 6 統計力学	同	Austin·M·Patterson 他		入門 COBOL	オーム社
		同 7 放射能	同	The Ring Index. Second Edition		戸田英雄	
		同 8 電子	同	American Chemical Society		入門 ALGOL	同
		同 9 原子模型	同	John·H·Marcan 他		沖野教師	
		同 10 原子構造論	同	Laboratory Record Book for Physical		コンピュータによる自動デザイン	
		同 11 金属電子論	同	Science Addison-Wesley		日刊工業	
		同 12 磁性	同	Dictionary of Organic Compounds Volume 1~5	Eyre & Spottiswoode publishers		
小野博吉						高橋義造	
		コンピュータ図学	コロナ社			ユーザのためのコンピュータマニュアル	
福水節夫						和田正信(訳)	
		図学概説	培風館			ディスプレイ工学	近代科学社
森田鉄 第三角法図学 演習問題付	同			土木施工編集委員会	山海堂	金山裕 計算機の数学的理論	同
ビショップ				解説 土木用語集	日新出版	宇津川鉄久	
		機動のさざな	みすず書房			論理数学とディジタル回路	朝倉書店
休岡二	同	数学再入門 I・II	中央公論社	土木施工管理技術研究会		英原宏 電子計算機通論 I・2・3	同
小出博	同	日本の河川	東京大学出版会	解説 応用力学		橋本順次	
日本分析化学会北海道支部				竹間弘		電子計算機のロジックと回路	誠文堂新光社
		解説 水の分析	化学同人	酒井立夫		電卓技術教科書・基礎編	ラジオ技術社
江上不二夫				わかる構造力学演習	同	塙見弘 信頼性工学入門 改訂二版	丸善
		初等化学講座6 生物化学	朝倉書店	橋本義一		現代金属物理シリーズ	
水野義久				システム工学の基礎	同	I 金属結晶の物理	アグネ
		核酸化学上下	同	伊藤順 数値計算の応用と基礎	アテネ出版	II 金属の電子論 I	同
安立綱光				土木施工管理技術研究会		III 同 2	同
		改訂新版 教養の生物学	同	土木施工管理技術マニュアル	近代図書	近藤二郎 光弹性実験法	日刊工業
佐竹一夫				K・チャッキー		益田義治 入門光弹性実験	同
		一般生物化学	三共出版	トンネル工学—理論設計施工—		松村尊躬	
東忠夫(訳)						油圧の動作とその応用機器	
		新しい生化学の領域	共立出版				
寺山宏(訳)							
		ガンの生化学	同	国分正直			
田中信男							
		抗生素質大要	東京大学出版会	土木材料実験 新版	技術書院		
				K・チャッキー			

機械加工マニュアル委員会

機械加工マニュアル

機械工作便覧編集委員会

JISにもとづく機械工作便覧

誠文堂新光社

伊藤謙 工具事典

誠文堂新光社

日本鉛物協会

新版キュボラハンドブック

丸善

河上益夫

熱処理技術シリーズ

日刊工業

1 热處理の基礎(1)

2 同 (II)

デン・ハルトーグ

応用材料力学

養賢堂

等々力徳重

広範機械用語辞典

機械協会

バーバラ・ウード他

かけがえのない地球

日本総合出版機構

中田孝 工学解析—技術者のための数学手法—

オーム社

八田桂三

高氣原動機

森北出版

岐美裕 工業熱力学

同

豊山久 大気汚染と自動車排ガス

技術書院

文 學

6 悲劇 I	同
三浦朝一 同 日	同
小津次郎	同
8 悲劇田詩	同
折口信夫全集第5巻	同
日本近代文学大系	同
9 北村透谷・徳富蘆花集	角川書店
42川端康成・横光利一集	同
57近代評論集 I	同
瓦摩世界文学大系	同
3 ブラントン	瓦摩書房
15セルバンテス	同
33オースティン・ブロンテ	同
42トルストイ II	同
43トルストイ III	同
62ヘッセ	同
65カフカ	同

現代の文学	同
6 大岡昇平	講談社
17安岡東太郎	同
25吉本隆明	同
30北杜夫・三浦哲郎	同
現代日本文学大系	同
2 稲沢詮吉・三宅雪嶺・中江兆民・岡倉天心	瓦摩書房
3 渋沢経一・内村鑑三	瓦摩書房
58村山知義・真船豊・久保英・三好十郎	瓦摩書房
66河上徹太郎・吉田鏡一・山本健吉・江藤淳	瓦摩書房

芸 術

河北信明

原色日本の美術

小学館

26近代の日本画

同

神代雄一郎

26近代の建築・彫刻・工芸

同

豊田博 バレーボールのトレーニング

大修館書店

へ / 七著作集

人文書院

74中島聰・中野好夫・河盛好藏・堀原武夫

瓦摩書房

79本多秋五・平野謙・荒正人・塙谷豊高・

小田切秀雄

瓦摩書房

81野間宏・武田肇

同

87坂田春衛・遠藤周作・井上光明

同

現代日本思想大系

32反近代の思想

同

明治文学全集

30通口一葉

同

69島崎藤村

同

スタンダード全集

1 赤と黒

2 バルムの僧院

同

3 リュシアン・ルーヴェン

同

4 同 日

同

5 アルマンス中廷貴族

同

6 イタリア年代記ラミエル

同

7 アンリ・ブリュラールの生涯

同

9 イタリア繪画史

同

11評伝集

同

12エゴチズムの回想日記

同

語 学

竹内照夫

新訳漢文大系27礼記上

明治書院

建田正 同

30春秋左氏伝(一)

同

星川清考 同

34楚辭

同

猪口篤志 同

45日本漢詩上

同

同 同

46 同 下

同

高部義信

新語情報

研究社出版

佐渡谷重信

時事英語要諦辞典

竹村出版

西原忠毅

脇りやすい英語の難所

松柏社

三省堂編集所

ドゥーラン西班牙辞典

三省堂

国弘正基

国際英語のすすめ 実日新書127

実業之日本社

上木明 現代英語の用法

研究社出版

牛上義均

英米風物資料辞典

開拓社

三省堂編集所

コンサイス外来語辞典

三省堂

Brewers Dictionary of phrase and Fable

Cassell

小田島雄志

シェイクスピア全集	瓦摩書房
1 喜劇 I	同
2 喜劇 II	同
3 喜劇 III	同
4 史劇 I	同
5 史劇 II	同

高原芳彦